

## 〈研究論文〉

## 授業の活性化を促すための韓国語授業の試み

## — 学習者の活動評価を中心に —

沈 智炫\*

## 1. はじめに

近年、教育現場では、教師が一方向的に提供する授業から、学習者が参加可能な双方向授業への転換が図られ浸透しつつある。このような動きに応じた教室活動として、「グループワーク」が重視されるようになった<sup>1</sup>。そこで、本稿は、韓国語授業における教室活動のグループ活動を対象として、その過程および結果を分析し、考察を加えることを目的とする。

具体的には、「教養韓国語」として韓国語を受講した学習者の教室活動に対する評価から、活動満足度を把握し、その要因について検討する。また、韓国語学習における動機づけや授業の活性化につながるものであったかに関する考察をおこなう。

## 2. 授業実践の概要

## 2.1. 授業実践の対象者

本稿において対象としたのは、筆者が2019年度に担当した長崎県立大学シーボルト校における「韓国語Ⅰ」の授業（週1回、90分）の受講生である（表1）。また、本科目は、全学教育科目における選択科目として開講されるため、ほとんどの学生が韓国語の学習を前期の1単位

のみで終える。筆者は、「韓国語Ⅰ」において、「入門」に位置づけられる文字や発音を学ぶレベルからコミュニケーション能力を重視する会話の活動までを採り入れた授業をおこなった。また、大学における初修外国語の習得は、このような限られた時間内だけでは現実的にかなり困難であるという視点から（鶴田，2015）、大学1年次を中心に、自律した学習能力を育成し、大学での授業内容が単位取得で一つの区切りとなっても、その後の自主的な学習意欲へとつながることを意識して、グループワーク中心の授業とした。

表1 対象者の情報

	全学教育科目（選択）
学 年	1年生（16人） 3年生（中国人留学生 4人）
人 数	20人

## 2.2. 授業の設計

授業においては、『完全！韓国語初級 1』（2015年刊、同学社）を指定テキストとして利用した。学習目標は、ハングルの読み書きや簡単なあいさつ、自己紹介ができることとした。初回の授業はオリエンテーションとして、今後の授業全体の構成や評価方法、グループワーク

\*長崎県立大学国際社会学部非常勤講師

表2 グループの内訳

グループ名 (人数)	名付けた理由
불고기 (焼肉) (4人)	メンバーのみんなが好き。響きが良い。
딸기 (イチゴ) (4人)	メンバーのみんながいちごが好き。
사과 (リンゴ) (4人)	おいしい果物だから。
공유 (ゴンユ) (4人)	人気の高い俳優だから。
포도 (ぶどう) (4人)	ぶどうの実のつき方が、絆がつながっているように見えるから。

などの教室活動に関する説明に充てた。なお、授業の評価方法は、授業への取り組み(30%)、ワークシート(毎回提出、20%)、小テスト(全2回実施、20%)、グループワーク(ステーション学習10%、期末発表20%)である。毎回の授業はグループ単位での教室活動<sup>2)</sup>を実施したが、第2～8回目の授業では、グループの構成が同一とならないように各回で編成した。第9回目以降では、グループを固定させた。これは、プロジェクト形式のグループワーク(ステーション学習及び期末発表)について継続的に理解を深め、目的意識を共有し、備えることができようにするためである。その際、学習者は、簡単な自己紹介をしながら、各自が好きな韓国語の語彙を紹介したのち、リーダーとグループ名を決定するように心がけた。各グループの人数は、寸田(2012)を参考として4人に設定した(表2)。なお、中国人留学生4人の受講者は、一つのグループにおいて複数人にならないよう配慮した。

### 2.3. 教室活動の進め方

グループワークを採り入れた教室活動は、教科関連活動、ステーション学習、発表にわたることができる。

#### (1) 教科関連活動

ほぼ毎回、授業時間のうち20分を利用し、グループワークをおこなった。おもな内容は、その日の授業内容や進度に応じた、各回のまとめとなるようなワークシートを準備して、教科関連活動を展開した。図1は、実際に使用したワークシートの例であるが、グループの仲間どうし、名前や出身地などの故郷を韓国語で質問し、回答を記述するようにした。つぎに、好きな韓国語の単語や表現を調べて書き、その意味を共有するようにした。その後にグループごとに受講生全員に対してそれらの内容を発表した。なお、各回のワークシート作成にあたっては、活動のスタイルが変化するものとなるよう考慮に努めた。

【練習1】 グループの仲間の名前(日本語・韓国語)や故郷を書いてみましょう。

이름이 뭐예요? 名前は何かですか? 고향이 어디예요? 故郷はどこですか?

	이름 [名前]	이름 [名前] 韓国語	고향 [故郷]
1			

中略

【練習 2】好きな韓国語の単語や表現を二つずつ書いて、グループの仲間と共有してみましょう。☞できれば、授業で学んでない単語・表現を紹介しましょう。町で見かけた韓国語でも良いです。

	이름	좋아하는 한국어 [好きな韓国語]	의미 [意味]
1			
中略			

図 1 教科関連活動ワークシート例

### (2) ステーション学習

ステーション学習は、ドイツで考案された教授法で、必須課題や選択課題によりいくつかの学習ステーションを置き、おもにペアやグループで、各々の学習ステーションを自由に選択し、学習者らが順次入れ替わりながら、主体的に学びを展開していくものである（沈，2018）。本授業では、各ステーションでの活動をおこない、グループ内の仲間どうしで活動時間内にフィードバックしていく。最後に筆者がその進捗を確認し、活動状況に応じた点数（1～5点）を与えた。ただし、表3に示したS4については、グループライン<sup>3</sup>に送ってもらった各グループの音声をプロジェクターを利用してすべての学習者に聞いてもらい、グループ内で他のグ

ループの音声を評価し、相互に採点（1～5点）するようにした。最終的に合計点数が1位となったグループには、簡単な韓国製の文具用品を賞品として準備した。

ステーション学習は、教室活動全般のまとめとして、第15回目の授業で、導入（10分）、ステーション学習（50分）、評価やまとめ（30分）の時間配分で授業をおこなった。

各ステーションで遂行しなければならない活動の内容は表3のとおりである。

S1に提示した6つの文章は、① 어느 나라 사람이예요?（お国はどこですか?）、② 고향이 어디예요?（故郷はどこですか?）、③ 오늘 숙제가 있어요?（今日は宿題がありますか?）、④ 뭐 좋아해요?（何が好きですか?）、

表 3 各ステーションでの活動内容

ステーション名	学習及ぶ活動内容
S 1	タスク→正確に、読んでみましょう。
	ワークシート：発音変化のある6つの文章、音声。
S 2	タスク→歌ってみましょう。
	ワークシート：発音変化のある童謡（1曲）。
S 3	タスク→長崎の路面電車マップの韓国語版を完成してみましょう。
	ワークシート：穴埋めできる長崎の路面電車マップの韓国語版。
S 4	タスク→韓国語で自己紹介<名前・趣味など>をしてみましょう。
	ワークシート：会話文（シナリオ）作成のための用紙。

⑤ 잘 부탁드립니다 (よろしくお願ひします)、  
 ⑥ 이건 한국말로 뭐라고 합니까? (これは韓国語で何と言ひますか?) である。学習者は、当てはまるものに線を引き、各自のスマートフォンを用いて、自身の音声を録音し、その音声をグループ内で共有しフィードバックする。その後、筆者が6つの文章の音声を事前に録音し、各リーダーとのグループラインに送信した音声を確認し、訂正、練習、筆者(教師)からの確認という活動をする。

S2に提示した童謡は、아기 상어(サメの家族)である。学習者は、グループ全員が十分に歌えるようになったら、筆者(教師)の前で披露してもらった。

S3に提示したのは、長崎市の路面電車系統図の韓国語版を準備し、空欄になっている電停名を韓国語で書き、完成させるものである。学習者は、グループ仲間と協働して空欄になっている電停名を表記基準にしたがい、韓国語で書き込む。その後、完成版を確認(採点)することになる。

S4は、「初対面の際の自己紹介」を想定したものである。学習者は、授業中に学んだ表現を活かし、「初対面の自己紹介」というテーマでグループ全員の会話を録音し、筆者(教師)とリーダーとのグループラインに、各リーダーが音声を送信する。

### (3) 発表

グループ発表は、「韓国語I」の最終試験に位置づけ、各グループは第9回の授業から固定したグループの仲間と「グループの目標」を定めて協働して取り組むこととなる。学習者は、発表のテーマ選びや内容の構想、役割分担などを明確化し、発表に臨んだ。発表時間は、1グループあたり10分(準備2分、発表6分、評価2分)とした。グループ発表の詳細を表4に示す。

なお、グループ発表の評価は、全体の20%としているが、その内訳は、教師の評価、グループ内の評価、全体評価から構成される。「教師の評価」は、教師がグループの発表に関して項目別におこなうものである(表5)。「グループ内の評価」は、いわゆる「ただ乗り」を排除し、グループ内での役割分担を公平なものとするために設けたもので、学生間の相互評価を促すものである。すなわち、各グループは、それぞれの役割を詳細に記入し、メンバー個人の費やした時間と努力、負担の度合い、協力の濃淡を考慮し、0~10点まで個別に評価する。「全体評価」は、クラス全体が各グループの発表を聞き、各項目について0点~5点で評価する手順となっている。

表4 グループ発表の詳細

グループ名(人数)	発表のテーマ
불고기(焼肉)(4人)	韓国のウサギ応援団ゲーム紹介
딸기(イチゴ)(4人)	韓国語で描き歌
사과(リンゴ)(4人)	韓国ドラマ「太陽の末裔」 —使えそうな胸キュンセリフ—
공유(ゴンユ)(4人)	アイコンメンバーのことを紹介
포도(ぶどう)(4人)	TWICEのFANCYで文法を覚えよう

表5 グループ発表の評価基準

	評価項目	詳細
1	発表内容	面白さ、楽しさ、興味・関心など
2	発表資料	パワーポイントや動画、配布資料など
3	韓国語の理解	説明のわかりやすさ、韓国語の使用など
4	韓国語の学習	使用された内容が韓国語学習に役立ちそうか

### 3. 調査結果および考察

自己評価シートは、前章に示した授業実践の内容について、無記名方式での記入を依頼した。それぞれの質問について、5段階評定(1：強くそう思わない、2：ややそう思わない、3：どちらでもない、4：ややそう思う、5：強くそう思う)のなかから1つを選び回答を求めた。また、「グループ活動」および「グループのメンバー間の協働」について良かった点、悪かった点を自由に記述するようにした。

#### 3.1. グループ構成と役割分担

まず、グループ作りの方法・構成については、全体の回答者(20人)のうち、「強くそう思う(9人)」と「ややそう思う(11人)」を合わせて肯定的評価は100%を占めた。次に、グループ活動の役割分担と協働に関しては、「強くそう思う(14人)」「ややそう思う(6人)であった。

「グループのメンバー間の協働」に関する自由記述の結果は以下である。(表記は原文ママ。筆者の判断でとくに重要と思われる箇所については下線を施してある)。

- ・ わからない所をグループのメンバーにきくなどして、助け合いができた。
- ・ 私が 分からなくて困っていた時に助けてくれた。

- ・ お互いの意見を尊重し合い、協力できたこと。
- ・ 普段交流することがない人と関わることができたので、良かったです。
- ・ みんな協力的で 楽しく取り組めた。
- ・ 他学科の人たちと仲良くなれて、 楽しく学んだ。
- ・ リーダーに仕事を任せすぎた点。
- ・ 発表のために、良いところ、悪いところを言い合えた。
- ・ みんなで 楽しみながら、協力できた。 **한국어 최고야.** (韓国語最高)
- ・ 全員で 協力して良い雰囲気<sup>で</sup>発表に臨めたので良かったです。 楽しく学習できました。
- ・ グループのメンバーがみんな優しい。
- ・ わからないところを教えてもらうことができる。
- ・ 役割分担をすることで、一人一人それぞれの役割を達成できた。
- ・ 協力し合え楽しくできた。
- ・ みんなで 協力して教えることができ、チームワークが良くなったと思う。
- ・ メンバー同士で 分からなかったことや会話を 楽しめながら協力してできたところ。
- ・ 協力できたが、作業の負担にかたよりがあった。
- ・ 協力できたのでよかったです。
- ・ 分からないことも、少し出来る友達などに 気軽に質問することができた。

### 3.2. 活動コミュニケーション・ツール学習者評価

教室活動を活発化させるためには、授業の前後でのメンバーどうしの話し合い、資料の共有や役割分担など「協働」の側面からもコミュニケーション手段の充実が必要である。また、教室活動のデザイン、設計、準備などの面で教師の支援が必要である。そこで、学習者との相談の結果、グループどうしの話し合いは、各グループどうしのラインで、教師（筆者）との話し合いは、教師と各グループのリーダーとのグループラインを用いることとした。このような、教室活動にラインを使用したことに関する満足度は、「強くそう思う（12人）」「ややそう思う（6人）」を合わせて94%、「どちらでもない（2人）」が6%であった。

### 3.3. 担当教師への学習者評価

グループワークを円満に進行・維持するため、教師の役割は重要である。特に「運営の促進者」としての役割と「支援する側」としての役割が求められよう。教科関連活動の際には、教室活動の割合にも考慮し、教科書の学習内容も疎かにならないように工夫し、次の授業にワークシートの内容を用いて、復習をおこなうようにした。また、ステーション学習、発表の際には、活動が始まる前に説明を十分に重ね、役割の分担とテーマの調節などを支援した。

教師の指示に関する満足度は、「強くそう思う（11人）」「ややそう思う（9人）」であった。また、教師の支援に関する満足度は、「強くそう思う（11人）」「ややそう思う（9人）」で、同数の結果となった。

### 3.4. 教室活動の満足度

まず、グループ活動の全体についての満足度

は、「強くそう思う（13人）」「ややそう思う（6人）」「どちらでもない（1人）」であった。次に、グループ活動の発表の満足度は、「強くそう思う（12人）」「ややそう思う（6人）」となった。このことから、グループ活動全体の活動および発表について、全体的に高い学習効果を見出していると言える。

また、韓国語の授業に対する満足度が高くなったのかについては、「強くそう思う（11人）」「ややそう思う（8人）」との回答であった。韓国語に対する興味・関心が高くなったのかについては、「強くそう思う（11人）」「ややそう思う（9人）」であった。これは、グループ活動を通して韓国語の授業に対する満足度が高く、韓国語に対する興味・関心が高まったことがうかがえる。

韓国語の授業にグループ活動が役に立ったのかについては、「強くそう思う（11人）」「ややそう思う（8人）」「どちらでもない（1人）」であった。今後も韓国語の授業にグループ活動が必要だと思うのかについても、「強くそう思う（11人）」「ややそう思う（9人）」であった。これらの結果は、韓国語の授業におけるグループワークは学生自身が前向きにとらえており、今後も積極的に採り入れる価値がある方法だと言えるだろう。

「グループの活動」に関する自由記述の結果は以下のとおりである。（表記は原文ママ。筆者の判断でとくに重要と思われる箇所については下線を施してある）。

- ・ 楽しく韓国語を学ぶことができました。同じグループの人たちとわくわくしながら学べたのが良かったです。もっと知っている単語を増やしていきたいです。
- ・ 毎回、前回の復習をしたり、その延長線で学

んだりできていて良かったです。

- ・グループの学習で協力しながら学べたので楽しかった。自分で予習復習をもっとしっかりしておくべきだと思った。
- ・今まで自分でYouTube でしかみてこなかった単語がたくさんでてきて、楽しかったです。グループ競争単語テストも刺激になりました。これからは雰囲気だけではなく文章がきちんと理解できるように更に頑張りたいです。선생님 사랑해요.
- ・班のメンバーの力を借りて、自分の実力以上の力を出すことができた。
- ・グループ活動が多くて、やる気がおきた。
- ・グループで協力して課題をこなせて楽しかった。韓国語の読み書きがしっかり身についた。
- ・教科書を使って、発音や文法などを確認するだけではなく、ペアやグループで発音したり会話をしたりして、実際に活用できたことが楽しかったです。
- ・私がわからなくて困っているときに、班学習だと協力して教え合うことができるのですごく助かった。間違えている時に指摘してもらいやすいのでよかった。
- ・グループで発音など教えあいながら練習したり、一緒に歌ったりできてよかった。楽しめてよかった。
- ・皆で協力しながら課題を一つ一つクリアしたり、発表したりして楽しかったです。
- ・皆で協力することで、わからない点を教えあい、授業の課題をこなして助かった。
- ・グループ活動で韓国語に苦手意識を持つことなく取り組めて自己紹介や簡単な歌が歌えるようになった良かった。発表も楽しかった。
- ・グループで協力し合って、韓国語の読み方や文の構成などを確かめながらできたので、き

ちんと理解することができよかった。悪い点は特にありません。

- ・皆で共有することで、自分のどこが間違っているのかを知ることができて、更に学びが深まりました。
- ・班で協力しながらたくさん学ぶことができました。もっともっと深く学びたいです。
- ・グループ活動で録音して自分の発音を聞くことで、ちがいを見つけることができた。もっとこんな活動がしたい。
- ・グループで楽しく、韓国語を学んで仲良くなったが、リーダーに頼ってばかりになってしまった。
- ・グループ活動で今まで覚えたことの総復習ができた。実際に自分の発音を聴いて、どこが悪いか気づくことができた。発表の準備は大変だったけど、勉強になった。
- ・班のみんなと楽しく学べたので、楽しかったです。役割分担をしてそれぞれ役割を果たしました。

上記から、グループワークのアプローチとその成果を「楽しい」、「協力」と受け止めていることが伺える。高橋（2008）も述べるように、グループワークでは、学習者は緊張感が解放され、自発的に学習に取り組み、学習意欲の高まり、授業の活性化への相乗効果が期待される。また、いわゆる講義式の一斉授業では、わからないことや疑問点などがあっても訊きづらいが、グループの仲間どうしであれば気軽に訊くことができ、さまざまな活動の活性化を促していくのである。そして、共通の目標のために協力する関係が形成されることで韓国語の学習意欲を高め、授業に積極的に取り組めるようになる。これらの活動は、授業の活性化はもちろん、学習の質的改善をもたらす可能性につながると

評価される。

なお、「リーダーに仕事を任せすぎだ」、「リーダーに頼ってばかり」の感想から分かるように、学習者のなかには、グループのリーダーに過度に頼る傾向もみられた。グループワークの成否の一つに、“ただ乗り”をするメンバーを作らないことがある点からも、学習者それぞれが責任感を持ち、グループワークに取り組む必要があると言える。

#### 4. おわりに

本稿では、コミュニケーション能力や授業の活性化に向けて、とくに、グループワークを採り入れた授業実践の内容とその後の評価について、考察をおこなってきた。

その結果、グループワークについて、ほとんどの学習者は「楽しい」「協力」活動で高い満足度を示しており、肯定的な評価をしていることが明らかになった。また、学習意欲を向上させ、全体として授業の活性化を促す効果も確認された。具体的には、以下のようなメリットがあげられる。

- ①学習者の相互学習に役立つだけでなく、親しみやすく、リラックスした雰囲気楽しく学習できる雰囲気を醸成する。
- ②グループの仲間どうし、間違った部分を適宜修正するという学び合いの効果もみられた。
- ③共通の目標に対して協力する関係が形成され、韓国語の学業意欲の高まりや、授業に積極的に取り組めるように促してくれる。
- ④グループ内の仲間意識が高まり、親しみを維持するようになる。
- ⑤学習者間の親しみは、授業の活性化につながり、学習の質的改善に寄与する可能性が示唆される。

しかし、グループのリーダーに頼りすぎず、学習者がそれぞれの責任感にもとづきグループワークに取り組む必要性も示された点は留意すべきであろう。

今後、韓国語学習において、よりよいグループワークを展開していくためには、教師が学習者の構成や開講科目の位置づけ、事前の学習レベルなどを可能な限り把握したうえで、授業の設計、活動のデザインを図ることが求められる。記して今後の課題としたい。

#### 注

- 1 2012年8月、中央教育審議会は「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて－生涯学び続け、主体的に教える育成する大学へ－」と題した答申を公表した。そのうち、「求められる学士過程教育の質的転換」に関して、「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学習（アクティブ・ラーニング）への転換が必要」との見解を示した。また、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法であると強調されている。
- 2 ペアワークの際には、授業をより活性化するために、同じグループ学習者ではなく、他のグループの学習者に限定して活動するよう工夫した。
- 3 教室活動をするためには、授業の前後のメンバーどうしの話し合い、資料の共有や役割分担など「協働」の側面からもコミュニケーション手段が必要である。また、教室活動のデザイン、設計、準備などの面で教員の支援が必要である。そこで、学習者との相談の結果、グループどうしの話し合いは、各グループどうしのラインをとおして、教師（筆者）との話し合いは、教師と各グループのリーダーとのグループラインを用いることとした。

#### 参考文献

- 沈 智炫 (2018) : グループ活動による学習者中心の学習の試み－ステーション学習法の事例から－. 韓国語教育研究, 8, pp. 168-



182.

寸田知恵（2012）：グループ活動を取り入れた初級スペイン語教育の試み. 関西大学外国語学部外国語フォーラム, 127, pp. 147-156.

高橋寿夫（2008）：授業の活性化に向けて－グループによる学生参加型授業の実践的考察. 関西大学外国語学部外国語フォーラム, 7, pp. 23-34.

鶴田涼子（2015）：大学の初修外国語教育における協働学習. 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報, 1, pp. 72-84.